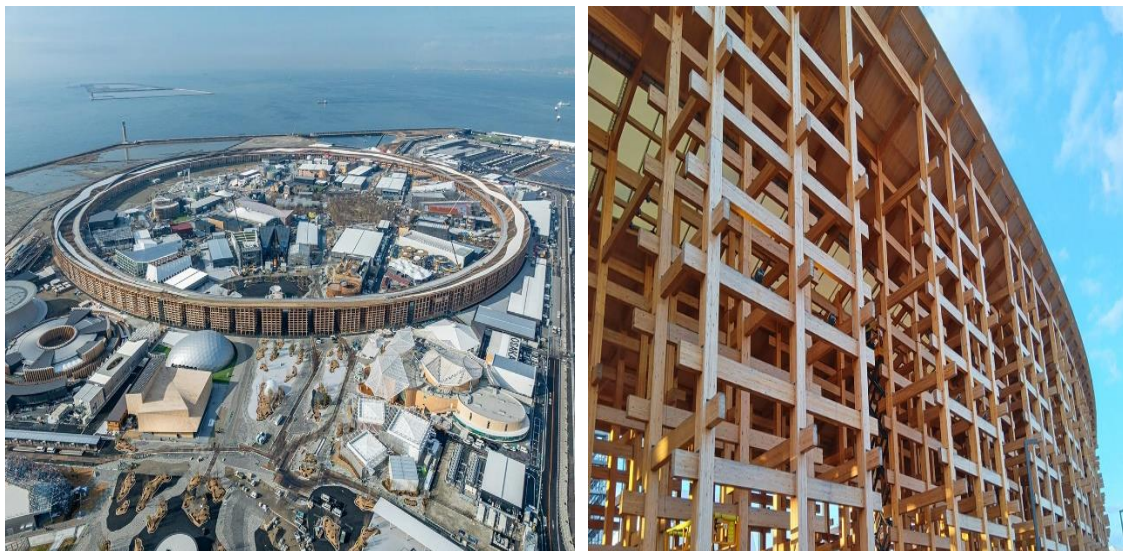


防災ニュース 5月号

2025年5月15日

舞子高校防災ジュニアリーダー

大阪・関西万博で被災地の復興を願う



(写真) [大屋根リング | EXPO 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト](#)

現在日本国内で話題となっている大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)。この万博のシンボルとなっている外周約2キロメートルの巨大木造建築は、「大屋根リング」と言われています。大屋根リングには主にスギやヒノキといった国産の木材が使用されています。日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な木造建築の技術である、「貫(ぬき)」や「仕口(しぐち)」といった接合技術が用いられ、釘や接着剤の使用を最小限に抑えています。これに加えて、現代の工法を用いながら強度と美しさを両立させているのが特徴です。会場内にある各国のパビリオンをリングの上から見れるほか、雨風や日差し等を遮る快適な滞留空間として利用されています。

さて、皆さんはこの大屋根リングの材料がどこからのものか、ご存じでしょうか。材料の一部に福島県産の木材が使用されており、福島県浪江町にある木造加工会社「ウッドコア」が製造しました。福島県浪江町は、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)で津波の被害を受け、また原発事故の影響で町内全域に避難指示が出され、避難を余儀なくされた地域です。震災以前は町全体の73%が森林を占めており林業が盛んでしたが、震災直後は浪江町を含む福島県全体の木材生産量が大きく落ち込みました。しかし、ウッドコアをはじめ生産者の努力もあり現在は震災前までの水準にまで回復しつつあります。ウッドコア取締役の朝田英洋^{あさだ ひでひろ}さんは、「万博の次は、町の復興の役に立ちたい。自分たちができることは、林業を盛り上げて森林循環させ、少しでも雇用を生むこと。徐々に町民は増えているけど、単身の働き手が多く、あまり子どもを見かけないのが寂しい。夕方になると子どもが遊んでいる風景が日常になれば」と願っています。

このように、大阪・関西万博は世界に向けての大きな行事となっていますが、その中に被災地の復興の願いも込められています。このことを多くの人に知ってもらうことで、福島県の現状を知るきっかけになります。皆さんも7月に遠足で大阪・関西万博に行かれる際は、福島県の復興に心を寄せて大屋根リングを見てはいかがでしょうか。

(引用) [大阪・関西万博のシンボル・大屋根を支える浪江町「ウッドコア」の挑戦 | nippon.com](#)